

## 女性活躍推進が企業経営に与える影響

福田 智美

### 目 次

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1. はじめに           | 4. インタビュー調査による定性的分析 |
| 2. 現状分析           | 5. 考察               |
| 3. 女性活躍推進と企業価値の関係 | 6. おわりに             |

日本の名目GDPは米国・中国・ドイツに次ぐ世界第4位であるが、ジェンダー・ギャップ指数は146カ国中125位（WEF [2023]）と先進国の中で最低レベルである。日本の結果を紐解いてみると、「経済」および「政治」における順位が低位であった。本稿では、「経済」の分野に着目し、日本における女性活躍推進が日本企業の経営にどのような効果・影響を与えるのか、考察を行った。

### 1. はじめに

2023年6月に公表された日本のジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）（注1）は146カ国中125位（WEF [2023]）であり、日本は世界でGDP第4位の国でありながら、ジェンダー・ギャップ指数は先進国の中で最も低いレベルであった（図表1）。日本の結果を紐解いてみると、「経済」および「政治」における順位が低位であった。日本の女性の労働参加率が男性並

みになればGDPは20%上昇するという予測もあり、今後日本のGDP上昇の可能性には女性活躍推進が大きな鍵となろう。

そこで本稿では、日本における「経済」の分野に焦点を当て、日本企業における女性活躍推進の効果と課題についてジェンダー・ダイバーシティの観点から述べることにしたい。



福田 智美（ふくた ともみ）

お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所研究協力員、Lazard Japan Asset Managementポートフォリオ・マネージャー／アナリスト、慶應義塾大学講師（非常勤）。2001年より運用業界に従事。機関投資家として日々数多くの日本企業とエンゲージメント対話に取り組み、財務情報と非財務情報（ESG）の両視点から、企業の調査・分析を行う。最近の論考に、「日本における認知的ダイバーシティ推進に関する一考察」（『日本経営倫理学会誌』第31号、2024年）などがある。